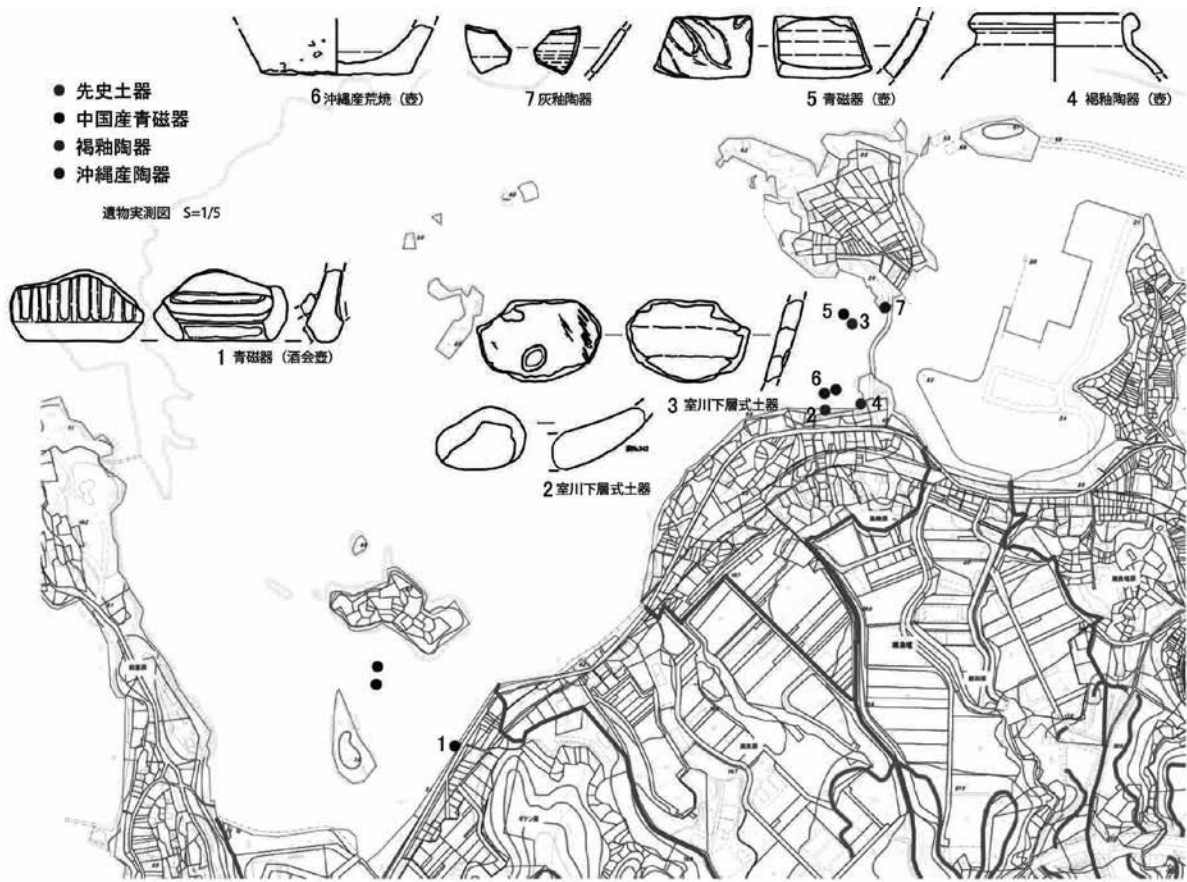


瀬良垣の埋蔵文化財

瀬良垣一帯の近年の文化財調査により少しずつ分かってきたことをご紹介します。

恩納村誌（1980）に記載されたヨリアゲ森とされる丘陵で現在の御嶽から国道を挟んで海沿いの丘陵先までの範囲で約700年～500年前までの中国産青磁や白磁、褐釉陶器壺などと一緒に地元で焼かれたとされるグスク土器などが近年発見されました。また、大屋バナリ島やマチバナリ島一帯から昔の瀬良垣ビーチ一帯の海域で約700年前のグスク時代に按司などの居城などで出土する中国産青磁（酒会壺）が発見されました。この壺は中世の集落ではなかなか出土しない遺物で、リーダー格の按司の居城である首里城や今帰仁城跡、山田城跡などでしか出土しない遺物です。考古学的な遺跡の立地から、現時点の情報から見ると瀬良垣は中世の頃には御嶽一帯の丘陵に生活拠点があり、その後には丘陵奥に古島（集落）が形成され、現在は海岸一帯の現集落へ至ったと想定できます。

その他にも瀬良垣の海岸一帯で初めて約5000年前の土器である室川下層式土器が数点確認されたことから瀬良垣の歴史は約5000年前までさかのぼる可能性があることがわかりました。



瀬良垣一帯の遺物確認箇所図



約5000年前の室川下層式土器



中国産青磁（酒会壺）